

# 国語科における 1 人 1 台端末の活用

～学習履歴の利活用による学習過程の振り返りの工夫～

北海道教育大学附属函館中学校 森谷 剛, 阿部 奈央美, 米田 真琴, 黒田 諭

## 1 はじめに

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申では、「子供たちの学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要」として、その意義に言及している。そして、これを受けて、中学校学習指導要領総則（平成 29 年 3 月告示）では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とともに「学習評価の充実」という項目が新たに置かれ、次の配慮事項が示された<sup>1)</sup>。

- (1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

学習評価においては、教師が「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価」することにより、生徒が「学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」とあるように、教師の評価が生徒の学びへの意欲や自己効力感の向上につながるものになることが求められている。また、授業改善の視点としては、「主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自分の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか<sup>2)</sup>」といった点についても述べられている。

このように、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、教師が評価を指導改善に生かすことにとどまらず、生徒自身が評価を学習改善に活かすことの意義が強調されている。

本校では、令和 4 年度から「1 人 1 台端末環境における指導と評価の一体化の実現」と研究主題を定め、1 年次には「CBTを活用した学習評価の在り方」について研究をしてきた。国語科では、授業の導入時に継続的に CBT を実施することによって、〔知識及び技能〕の理解や定着の度合いについての状況を見取ってきた。そして、CBT で得られた形成的評価をもとに指導計画を修正し、学習者の実態に合わせて指導を改善してきた。一方で、学習者が学習履歴を自分の学びに利活用する場面を設定することや、単元や題材のまとまりごとに総括的な評価を行ったあと、その結果を学習指導に生かすという評価の活用面には改善の余地を残している。

研究 2 年次にあたる今年度は、学習者自身が学習履歴を利活用しながら自分の学びや変容を自覚できるような学習過程の振り返りの工夫について実践的な研究を進めていく。本校では、2016 年から Google Workspace for Education を全校で活用してきた。その取組の沿革は「1 人 1 台端末活用のミライを変える！

BYOD／BYAD 入門」中川一史・北海道教育大学附属函館中学校編著（明治図書）にまとめられ刊行されている。国語科でも Google Classroom を活用して継続的に学習履歴の蓄積を行ってきた。

Google Classroom には採点機能が搭載されており、その結果は教師と対象の生徒のみが閲覧できるようになっている。Google ドキュメントや Google スライド等を用いて作成した成果物に対する限定コメントでの教師からの助言や教師と生徒のやりとり等も学習履歴として蓄積が可能である。端末上で共有された学習履歴を活用しながら学習したことを振り返ったり、学習の見通しを立てたりすることは、より自覚的に資質・能力を育成することにつながると考える。

本校の研究総論では、学習履歴の利活用によって期待される生徒の変容について、①生徒が自らの学習履歴をいつでも確認できる、②見通しをもって学習計画を立てることができる、③自分にあった学習活動を調整することができる、④学習を振り返ることができる、という4点を挙げている。国語科においても学習履歴の利活用による学習過程の振り返りの工夫に焦点を当て、「1人1台端末環境における指導と評価の一体化の実現」を目指した実践と検討を重ねていく。

## 2 研究の経過

今年度は本校の研究主題として「1人1台端末環境における指導と評価の一体化」を掲げて2年目になる。令和4年度は、「CBTを活用した『指導と評価の一体化』の取組」を副題として、授業の導入時に Google フォームを活用したCBTの実践研究を行った。以下は、令和4年度本校研究大会の授業（授業者：森谷剛）の導入時に行われたCBTの内容とその結果である。

それぞれの問いを読み、問題の答えを選びなさい。

問1 「ことに清閑の地なり」とあるが、立石寺がある場所はどのような場所か。次から選びなさい。  
 景色がすばらしい場所  
 とりわけ静かな場所  
 気軽に参拝できない場所  
 多くの人が集まる場所

問2 「尾花沢よりとつて返し」とあるが、作者が予定外の立石寺を訪れることにした理由についてまとめた次の文の（ ① ）に入る言葉を、古文中から5字で書き抜きなさい。  
 立石寺は（ ① ）であると、人々から勧められたから。

問3 「立石寺」における作者の心情を最もよく表した言葉を、古文中から10字で書き抜きなさい。

問4 「立石寺」で俳句が詠まれたのは、一日のうちのいつ頃か。それがわかる表現を古文中から探し、7字で書き抜きなさい。

問1	問2	問3	問4
とりわけ静かな場所	一見すべき	心住みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆきのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心住みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	初の間聞こえず
とりわけ静かな場所	一見すべき	心澄みゆくのみおぼゆ	日いまだ暮れず

授業(内容)CBT

授業(内容)CBT		
評価	人数	割合
A	53	59%
B	4	4%
C	33	37%

図1 CBT実践事例 Google フォームによるCBTの設問と結果

授業の導入に Google フォームによる CBT を行うことで、教師はグラフ化された結果から全体的な傾向やつまづきを捉え、形成的評価を踏まえた授業展開を実施することができた。つまづきの多い問題については一斉指導の中で解説を行い、理解を深めさせた。一方、問4の解答例に見られるように、「物の音聞こえず」など誤答のパターンとしては少数の解答をした生徒には個別指導を行い、理解を促した。CBTの活用による即時的な評価によって、生徒の理解度を把握し、つまづきの補充、および授業改善につなげることができた。

課題点としては、[思考・判断・表現]の評価については、Google フォームを活用した CBT では設問の設定や即時的な評価が難しいことから、国語科として継続的な実践を重ねることができなかった。

### 3 本年度の研究

#### 3.1 国語科における学習履歴の蓄積

本校では、各教科で育成を目指す資質・能力について、「資質・能力整理シート」を作成している(図2)。これは、学習指導要領及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を基に、整理されたものである。今年度は、この「資質・能力整理シート」を活用して、「振り返りシート」を作成した。「振り返りシート」には、目標と学習の流れが示され、学習のゴールや見通しを生徒が把握しながら授業に取り組めるようにした。また、目標については、何ができるようになればよいのかを生徒が分かるように、細分化して示した。これは、生徒が授業の目標に照らし合わせて振り返りや学習課題の設定をするための工夫である。評定に用いる評価場面についても「振り返りシート」を確認することで、学習計画を立てるための一助とした。具体的な評価場面や評価物などを提示して、

いつ、どのような規準で評価するのか生徒と共有することによって、生徒は学習のゴールがイメージでき、また、単元や題材のまとまりの中で、資質・能力を発揮する場面について意識できるようにもなった。

これまででも国語科では単元や題材のまとまりの終末時に振り返りを行い、Google フォームで集約することで生徒と教師が内容を共有してきた。生徒にとっては、自分の理解したことを教師に伝えることが振り返りの目的の中心となっており、自分の学習改善に活用するために振り返るという意識を高めることは十分とは言えなかった。そこで、今年度は「振り返りシート」を単元・題材の終末時だけでなく、毎時間の授業の中に位置づけ、簡潔に振り返りができる工夫を施した。先に述べた通り、何ができるようになればよいのかを細分化して示すことにより、振り返る観点が明確になったことと、簡潔に書くことを推奨したことで継続して取り組めるようになった。「振り返りシート」は一つのスプレッドシートに整理した。そうすることで、生徒の中で学習内容の連続性や関連性が見えて、汎用性のある思考方法や表現方法を身に付けることにつながるのではないかと考えた。

		【知識及び技能】									
		(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項			(2) 情報物の扱い方に關する事項			(3) 我が國の言語文化に關する事項			
	指導事項等	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
月	教材	時数									
1	志れモロス 〔書く〕作品の魅力をもとめ、語り合おう	6 [1]									
	漢字に親しもう6	1									
	文法への扉① 一字違いで大違い →文法② 付属語 (P244-250)	2									
8 表現を 見つける	構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	4									
2	言葉③ 話し言葉と書き言葉	2									
	漢字③ 送り仮名	2									
	国語の字びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る	5									
	水	2									
3	振り返り	学習を振り返ろう	3								

図2 資質・能力整理シート

『平家物語』							
目標 学習の最後に行えるようになること	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
『平家物語』を読み、人物の心情、場面の様子について解釈し、聞き手にそれを伝える朗読や群読を行うこと。	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、正確に読めること。	係り結びについて理解し、古文中から探したり、その効果を説明できること。	対句について理解し、古文中から探したり、その効果を説明できること。	先生や仲間等の朗読・群読を読み、表現の工夫を見つかけたり、その意図について考えたりすること。	心情や場面の様子が読み取れる部分を古文中から抜き出し、ピラミッドチャートに表すこと。	推論した心情や場面の様子をもとに朗読や群読の工夫を考え、聞き手に印象的に伝えること。	自分の朗読・群読を聞き、表現したいことが実現できているかを振り返り、必要な学習を計画して取り組むこと。
学習の流れ	振り返り「自分が取り組んだこと・取組状況・有効だったこと」				次の課題・学習計画「目標達成のために次に取り組むこと」		
○「NHK 10 min.」を見て、『平家物語』の概要を知る。 ○自分の音読と範読を聞き比べて、自己評価を行う。 ○実習生の群読発表を聞く。 ○C B Tに取り組む。 ○振り返りを行い、自分の課題を設定する。							
○範読から強調されている部分を聞き分ける。 ○係り結び、対句について理解する。 ○人物像や人物の心情、場面の様子についての古文を引用しながらピラミッドチャート★に表す。 ○「扇的」の朗読を行い録音する。 ○振り返りを行い、自分の課題を設定する。							
○前時に作成したピラミッドチャートの交流を行う。 ○共同編集機能を活用して、グループで群読台本を作成し、群読練習に取り組む。 ○「扇的」の朗読・群読を行い、録音する。★ ○C B Tに取り組む。★ ○学習の振り返りを交流し、「敦盛の最期」の学習計画を立てる。★							

図3 振り返りシート『平家物語の一部』

図3は「平家物語」に用いた振り返りシートである。学習の流れの欄にある★は評定に用いる評価場面を示したものである。

この他にも昨年度から継続的に活用している Google フォームによる C B Tに加え、話し合い活動で音声入力テキストや、音読やスピーチ等の音声データ、プレゼンテーションの際に作成したスライドや各種文章などの生徒が表現した成果物についても学習履歴として捉え、Google Classroom に蓄積してきた。端末を活用して作成した成果物は、結果だけではなく、完成に至る過程や指導履歴についても蓄積されるため、学習過程を俯瞰し、振り返りを促す際に有効に活用できるものとする。

### 3.2 学習履歴を利活用した指導と評価

国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』には、「『児童生徒にどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。」<sup>9)</sup>と述べられている。つまり、学びを深めていくためには、「振り返り」から「見通し」を行う過程に重点をおき、新たな問題解決のためにどのようにすべきかを考えさせることが重要だと考える。

そこで、「振り返りシート」と Google Classroom に蓄積された成果物を用いて、1 単位時間の学習について振り返り、次の課題を自ら設定させることを継続して行った。生徒の作成した成果物は Google Classroom で提出させ、形成的評価を行った後に返却をしている。形成的評価については、Google Classroom の採点機能、ルーブリック、限定コメントなどの機能を活用して行っている。ルーブリックに照らし合わせて、C 評価の状況にある生徒に対しては限定コメントを通して、個別の指導を行う。限定コメントや生徒が修正をした履歴も学習履歴として、生徒が自らの学びを振り返る際に活用することができるようにしている。

## 4 研究実践例

4.1 第2学年 『平家物語』〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)イ 「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

(1) 単元名 「平家物語を読んで感じたことや考えたことを朗読や群読で表現しよう」

(2) 単元の目標

- ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。〔知識及び技能〕(3)ア
- ・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)イ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

(3) 本単元における言語事項

古典特有の表現に着目し、登場人物の心情や場面の様子を読み取り、読み取った内容が効果的に伝わるような朗読の工夫を考えること。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア	①「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。C(1)イ	進んで、登場人物の言動の意味などについて考えて内容を解釈し、学習の見通しをもって読み取った内容が効果的に伝わるような朗読の工夫を考えている。

(5) 指導と評価の計画（全8時間）

時	主たる学習活動	評価計画		
		知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「扇の的」の音読を行い、録音する。</li> <li>○「NHK 10min.」を見て、『平家物語』の概要を知る。</li> <li>○自分の音読と範読を聞き比べて、自己評価を行う。</li> <li>○実習生の群読発表を聞く。</li> <li>○CBTに取り組む。</li> <li>○振り返りを行い、自分の課題を設定する。</li> </ul>			①
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○範読から強調されている部分を聞き分ける。</li> <li>○係り結び、対句について理解する。</li> <li>○人物像や人物の心情、場面の様子への解釈について古文を引用しながらピラミッドチャートに表す。</li> <li>○「扇の的」の朗読を行い、録音する。</li> </ul>		①	②

	○振り返りを行い、自分の課題を設定する。			
3	○前時に作成したピラミッドチャートの交流を行う。	①		①
4	○共同編集機能を活用して、グループで群読台本を作成し、群読練習に取り組む。 ○「扇の的」の朗読・群読を行い、録音する。 ○C B Tに取り組む。 ○学習の振り返りを交流し、「敦盛の最期」の学習計画を立てる。	②		
5	○「敦盛の最期」の音読を行い、録音する。 ○「扇の的」の学習をもとに、学習内容を選択して取り組む。 ○「敦盛の最期」の朗読を行い、録音する。 ○振り返りを行い、自分の課題を設定する。			① ②
6	○C B Tに取り組む。 ○C B Tで理解が不十分な内容と、前時の振り返りに記された疑問について全体または個別に確認する。 ○「扇の的」の学習をもとに、学習内容を選択して取り組む。 ○「敦盛の最期」の朗読を行い、録音する。 ○振り返りを行い、自分の課題を設定する。	②		②
7	○人物像や人物の心情、場面の様子への解釈について古文を引用しながらピラミッドチャートに表し、交流する。 ○共同編集機能を活用して、グループで群読台本を作成し、群読練習に取り組む。 ○「敦盛の最期」の朗読・群読を行い、録音する。 ○振り返りを行い、自分の課題を設定する。		①	②
8	○C B Tに取り組む。 ○必要なグループは「敦盛の最期」の朗読・群読を行い、録音する。 ○「扇の的」「敦盛の最期」の朗読・群読を聞き直し、学習の取組について振り返る。 ○学習の振り返りを交流し、まとめを記述する。	②	②	③
評価の内容				
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度	
	① 録音データ ② C B T結果	① ピラミッドチャート記述 ② まとめ記述	① 振り返り ② 朗読・群読練習の過程 ③ まとめ記述	

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

## (6)授業の実際

この単元は中学2年〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)イ「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」の資質・能力の育成を目標としている。また、〔知識及び技能〕(3)ア「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと」との関連も踏まえ、言語活動として朗読・群読を取り入れた。『平家物語』は対句による情景の広がり、係り結びによる強調、擬音語・擬態語を用いた臨場感あふれる表現など朗読や群読といった言語活動に適した作品であると考えられる。群読の台本作りを行う中で、それらの表現に着目させ、どのように読むか考えることで、内容に対する理解をより深めることができると考えた。以下に、すでに授業を行っている1～4時までの授業内容と振り返りについて紹介する。

### 1時間目

「扇の的」の音読・群読という単元のパフォーマンス課題についての見通しを持たせた。まず、初見の段階で音読を行った。そうすることで、現時点で身に付いている資質・能力を自覚できるとともに、今後の学

習でどのような資質・能力を身に付ければよいかを明確に捉えることができると考える。また、録音した自分の音読と教師の範読、プロの朗読音声聞き比べることによって、目標とする朗読のイメージを具体化できるようにした。それらの録音データはGoogle Classroom内で必要な時に確認できるようにした。さらに、繰り返し聞き直して自分の読みの変容を振り返らせる意図から、40秒以内で読み切れる同一箇所を指定して、毎時間録音させた。録音にあたっては、online-voice-recorderを使用した。録音したデータは振り返りに挿入をさせ、すぐに聞けるようにした。録音データをまとめて表示することができるので、自分の音読の変容を捉えて、具体的に振り返ることができるようになった。

<p>振り返り「自分が取り組んだこと・取組状況・有効だったこと」</p> <p>108秒、仮名遣い△ひょうど、こひょう、ひいふつとぞ射切つたる、虚空、夕日 声が小さくて聞きづらい。</p>	<p>次の課題・学習計画「目標達成のために次に取り組むこと」</p> <p>①②③⑤ 範読を何度も聞く。時間内に読み切れるように練習する。仮名遣いの復習</p> <p>🔊 🔊</p>
<p>振り返り「自分が取り組んだこと・取組状況・有効だったこと」</p> <p>時間内に正確に読むことができた。範読やプロの音読と自分の音読を比べると、声の出し方や抑揚の付け方が全然違っていたので、近づけられるようにしたい。速さの変化や間などそれぞれに工夫されていたので、私も解釈を聞き手に伝えられる読み方を考えたい。</p>	<p>次の課題・学習計画「目標達成のために次に取り組むこと」</p> <p>②④⑤⑥ 係り結びについて理解をする。工夫して読めるように練習をする。扇的の内容を理解して、自分の音読に生かす。</p> <p>🔊 🔊</p>

図4 1時間目の振り返り（生徒記述より）

1時間目は音読の目安となる時間を提示したことと、CBTの設問として歴史的仮名遣いに関するものが多かったことから、時間や歴史的仮名遣いについて振り返りを書く生徒が多かった。教師の範読やモデルとなる朗読を複数聞けるようにしたことで、読み方の違いに気付いた生徒の振り返り（下段）を、2時間目のはじめに紹介した。

## 2時間目

教師の範読によって係り結びや対句に着目させ、その効果や場面の様子について全体で確認をした。そして、効果や場面の様子を表現するためにどのように読んだらよいかを考えながら朗読練習に取り組んだ。さらに、敦盛の心情、場面の様子についての解釈について古文を引用しながらピラミッドチャートに表した（図5）。ピラミッドチャートはGoogle スライドで作成し、クラス全員分のものが見られるようにした。振り返りにも見られるように、他者の作成したものを参考にしながら取り組む様子が見られた。1時間目の振り返りが仮名遣いや音量などの音読の技術面を中心にしていたのに対し、2時間目の振り返りは「扇的」の内容に触れているものが大半であった。それは、ピラミッドチャートを作成し、それをもとにどのように読むか考えることで、内容に対する理解を深めることにつながったからだと考えられる。

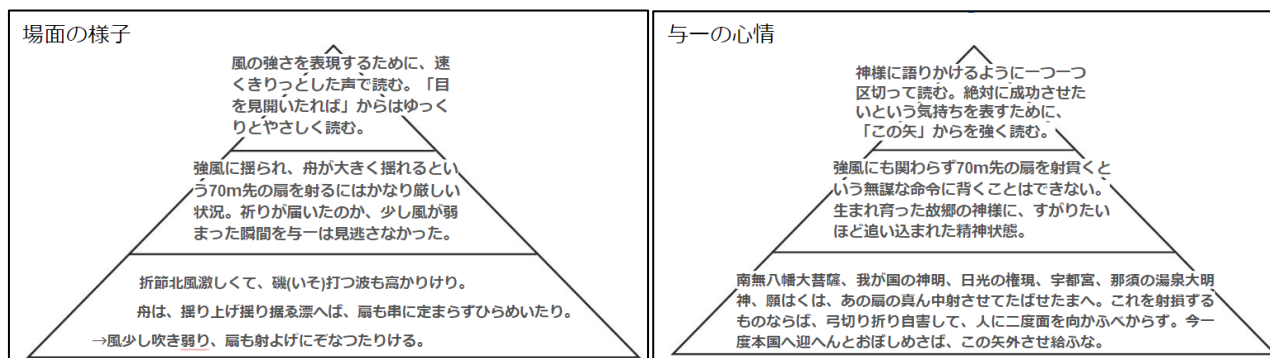


図5 ピラミッドチャート

振り返り「自分が取り組んだこと・取組状況・有効だったこと」	次の課題・学習計画「目標達成のために次に取り組むこと」
係り結び・対句〇モデルの朗読を聞き比べて、自分の解釈に近い読み方を探した。ピラミッドチャートを作る時には、引用しているところが同じ人と確かめながら与一の心情や天候の変化についてまとめた。前回よりも速さや間を工夫して読めた。	③⑥言葉の切れるところを意識して範読を聞く。自分と同じ部分でピラミッドチャートを作った人と音読交流する。与一の緊張感を音読で表す。

図6 2時間目の振り返り（生徒記述より）

### 3時間目

5～6名のグループで群読を行った。群読については、単元の1時間目に実習生の発表を見たことと、1学年時に『河童と蛙』（草野心平）で群読活動をしていることから、生徒の中で活動のイメージはできていた。生徒には、群読する場面の約半分について教師が作成をした群読台本を配布し、加除修正させる形で群読台本を完成させた。グループ活動においては、ピラミッドチャートをもとに場面をどのような表現したいのかイメージをまとめて話し合い、発表のタイトルを考えさせた。そして、そのイメージに合うようにグループで分担を考えて群読で表現できるように練習を行った。解釈と群読の表現の整合性について自己評価を行い、録音と視聴を繰り返しながら練習を進めてほしいという教師のねらいがあったが、生徒は群読台本を完成させることに注力してしまい、群読を始めるグループが少ないという様子が見られた。そこで、一度時間を区切って群読発表の録音と視聴を行わせた。自分たちのグループの録音を聴き合って確認し、イメージ通りに伝えられているのか振り返り、上手いかなかったと感じた場合には、その部分について再検討を行った上で再度録音を行うように指示をした。

### 4時間目

4時間目には、1時間目の初発の音読と本時の朗読とを比較させ、その変容について振り返りを行った。自分の朗読やグループの群読を録音して聴くことで、自分のイメージと表現との差異を確認し、粘り強く表現を磨き合うことができた。また、1時間目に実施したCBTと同様に仮名遣い、係り結び、対句、オノマトペについて出題をした。正答率は1時間目の7問中3.3から6.1に向上した。

4時間目で『扇の的』の学習を終え、5時間目からは『敦盛の最期』を同じ目標のもと学習していくことから、4時間目迄の自分の学習を振り返り、5時間目以降の学習計画を立てる活動を行った。学習の振り返りはGoogle フォームを活用し、「自分の学習に有効だったこと」、「継続したいこと」、「次の課題」を回答させた。図7のとおり、生徒の回答としては、「朗読した自分の朗読や群読を聞くこと」、「範読やモデルとなる朗読を聞くこと」、「他者のピラミッドチャートを見ること」が有効な手立てとして過半数を超えていた。生徒間で行った学び方の交流の様子を見ていると、その手立てがなぜ有効に働いたと感じるのかを具体的に話す生徒がいて、「振り返りシート」を見返しながら自分の学習過程について想起し、自己評価をする機会になっていた。Google フォームの選択形式により解答させたが、今後は選択形式に加えて、その手立てがなぜ有効に働いたと感じるのかを記述させることで、学習過程と自分の変容について振り返ることができるようにしたい。

『扇の的』の学習を生かして『敦盛の最期』の学習計画を立てる場面では、グループで表現したいイメージが聞き手に意図通りに伝わらなかったという反省点を生かし、他のグループに聞いてもらう場面を早い段階で設定するなど、これまでの学習過程を振り返り、学び方を改善しようとする記述が見られた（図8）。



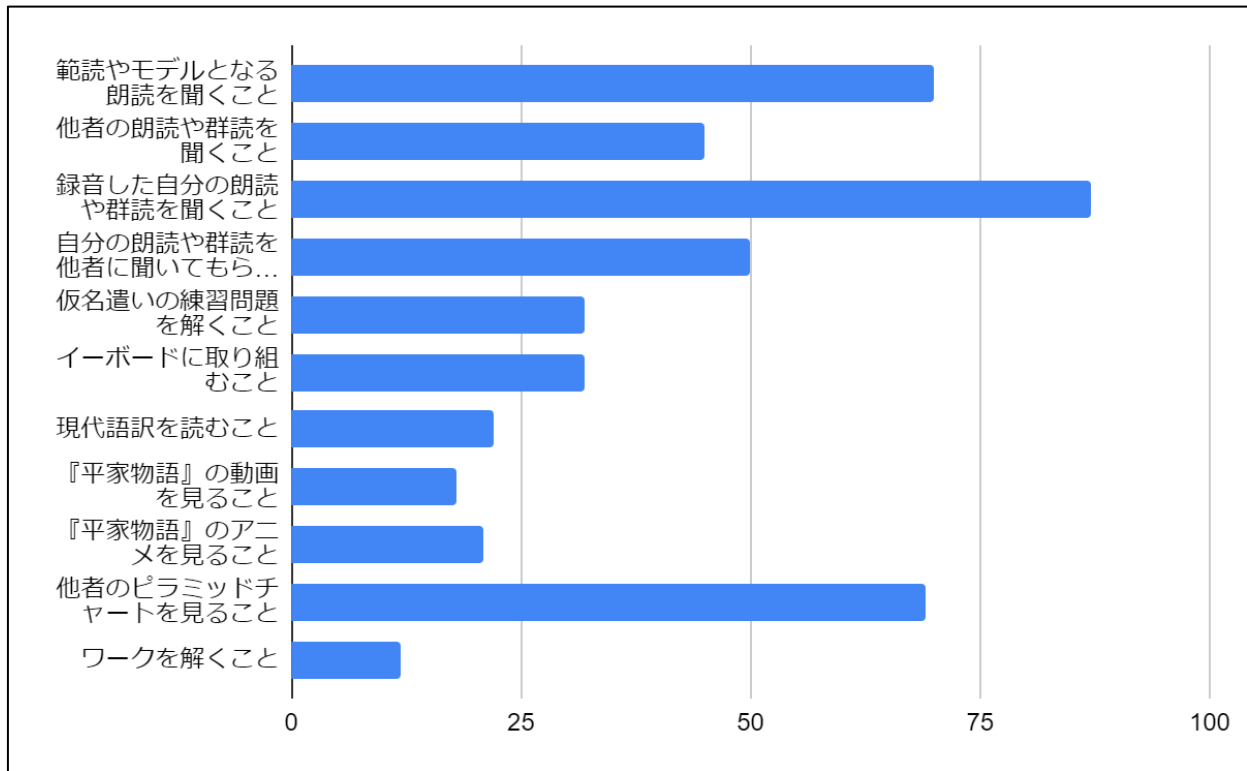


図7 Google フォームの結果「自分の学習に有効だったこと」(複数回答可)

振り返り「自分が取り組んだこと・取組状況・有効だったこと」	次の課題・学習計画「目標達成のために次に取り組むこと」
<p>⑥与一の緊張感と強い決意を出すために間をあけて読むようにしたが、聞いている人にあまり伝わっていなかったため、もっと間をあけて人数を増やしながら読むようにした。次は早めに人に聞いてもらって表現したいことが伝わっているか確かめてから練習をするようにしたい。</p>	<p>敦盛の最期の計画 5 役決め、変化をつけるところ、イメージを決める、他の班に聞いてもらう 6 ピラミッドチャートの作成・交流、読み方のペアチェック何回も 7 台本決定、練習と録音 声を揃えるところとずらすところは早めに何度も練習</p>

図8 4時間目の振り返りと学習計画(生徒記述より)

#### 4.2 第1学年 『桜蝶』[思考力, 判断力, 表現力等] C読むこと(1)イ 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えること。

(1)単元名 『桜蝶』を読み比べて, 表現の違いを説明しよう。

視点の異なる2つの文章を読み比べ, 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化がなどについて描写を基に捉える。

(2)単元の目標

- ・事象や行為, 心情を表す語句の量を増すことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

[知識及び技能] (1)ウ

- ・場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C (1)イ

- ・言葉がもつ価値に気付くとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力, 人間性等]

(3)本単元における言語活動

小説を読み、表現の違いについて考えたことを表現する。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 C (2) イ)

(4)単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事象や行為、心情を表す語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えようとしている。 C (1) イ	進んで、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉え、学習課題に沿って表現の違いについて考えたことを表現しようとしている。

(5)指導と評価の計画 (5時間)

時	主たる学習活動	評価計画		
		知	思	主
1	○単元の課題を確認する。 ○『桜蝶』A・Bをそれぞれ読む。 ○気付いたことを振り返りシート書く。		①	
2	○『桜蝶』A・Bを、演劇的手法を用いて全員で再現する。 ○気付いたことを振り返りシートに書く。		①	
3	○気付いたことをグループで共有する。 ○全体で表現の違いをJamboardにまとめる。 ○気付いたことを振り返りシートに書く。	②	①	
4	○『桜蝶』A・B どちらの描かれ方が面白いと思うか 200字以内で自分の考えを書く。 ○作文を書いて気付いたことを振り返りシートに書く。		②	①
5	○振り返りシートを基に単元の振り返りを書く。			②
評価の内容				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
①振り返りシート ②Jamboard	①振り返りシート ②200字作文	①振り返りシート ②まとめ記述		

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

(6)授業の実際

この単元は中学1年〔思考力・判断力・表現力等〕C (1) イ 「場面の展開や登場人物の相互関係の変化などについて、描写を基に捉えること」の資質・能力の育成を目標としている。また、〔知識及び技能〕

(1)ウ 「事象や行為、心情を表す語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること」との関連も踏まえ、言語活動として表現の違いについて自分の考えを書く活動を取り入れた。『桜蝶』はA・Bそれぞれ異なる視点人物で同じ出来事が描かれており、物語の視点が変わることでのどのような描写の違いがあるのかを比べて読むことに適した作品であると考えた。描写を基に、実際に演じて表現しながら違いに着目させ、視点が変わることでのどのような表現の違いがあるのかに気づかせることができると考えた。

図8は『桜蝶』に用いた振り返りシートである。生徒は毎時間の学習で気付いたことを記述した。単元末に毎時間の振り返りを確認できるようになっている。

学習の流れ	振り返り
○単元の課題を確認する。 ○『桜蝶』A・Bをそれぞれ読んで気付いたことを振り返りシートに書く。	視点が違うことと主人公が違うということは違うかも。どう違うのか辞書で調べて言葉ノートに書きたい。
○『桜蝶』A・Bを、演劇的手法を用いて全員で再現する。 ○気付いたことを振り返りシートに書く。	Aが客観的な描写（第三者視点）、Bは倉橋君の視点だと思った。Bでは親友がいること、なぜ桜蝶を見ていた理由、親友の言葉がわかる。Bの方がわかることが多く、物語を楽しめると思った。でもAの方では細かいことがわかる（桜蝶の説明、おどろいた様子）どちらもあわせて楽しみたい。
○気付いたことをグループで共有する。 ○全体で表現の違いをJamboardにまとめる。 ○気付いたことを振り返りシートに書く。	Bの方がわかることが多く物語を楽しめると思った。

図8 振り返りシート『桜蝶』の一部

以下に、実際の授業内容と振り返りについて紹介する。

### 1時間目

『桜蝶』の本文を読み終わった後に感想を交流することを予告し、教師が範読した。中学校で初めて読む物語教材であったため、多くの生徒は異なる視点で描かれた二つの物語を初めて読んだ。読後にペアで感想を述べ合った際には、同じ出来事について書かれていることを確認し合う様子が見られた。

振り返り
視点が異なることと主人公が異なるということは同じとは言えない。どう異なるのかまとめたい。
桜蝶を読んでみて同じ物語なのに違う視点があってもおもしろいと思った。僕はBの方が面白いと思う。同じ物語でいろんな人の考えがでてくる「クラスメイツ」がおもしろいので、読んでほしいです。

表1 1時間目の振り返り（生徒記述より）

### 2時間目

前時の振り返りを全体で共有し、作品が異なる「視点」で書かれていることを確認した。さらに、表現の違いを明らかにするために、みんなで実際に演じてみようと呼びかけた。登場人物である「白石さん」、「倉橋君（僕）」、「親友」、「桜蝶」、「葉桜蝶」の配役を学級で分担し、AとBを実際に動作化することで物語の展開や描写の違いを確認した。

振り返り
Aが客観的な描写（第三者視点）、Bは倉橋君の視点だとわかった。Bでは、倉橋君に親友がいること、倉橋君が桜蝶を見ていた理由、親友の言葉が描かれている。Bの方が分かることが多く、物語を楽しめると思った。でもAの方では、桜蝶の説明や桜蝶を見て驚いた様子など、細かいことが分かる。どちらもあわせて楽しみたい。

表2 2時間目の振り返り（生徒記述より）

### 3時間目

前時の授業を想起し、視点が変わることで表現にどのような違いがあったのかをグループで話し合った。その後、グループでまとめられた意見を Jamboard でまとめながら A・B それぞれの場面の展開の違いや、登場人物の描かれ方の違い、情景描写の違いについて全体で共有をした。その際に、特に表現の違いについて話題になったのは以下の4点である。

- ・書き出しが登場人物のセリフから始まり、展開の仕方が異なる。
- ・Bでは倉橋君が桜蝶のことについて教える描写がなくなり、その分倉橋君の回想が描かれている。
- ・Aの方が、桜蝶の描写が詳しい。
- ・Bでは倉橋君の親友の言葉が描かれ、心情の変化が分かりやすい。

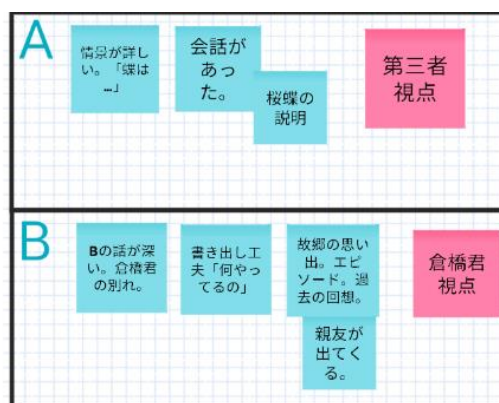


図9 3時間目に作成された Jamboard の例

### 4時間目

「A・B どちらの描かれ方が面白いと思うか」という題で、200字以内の意見文を書く課題を提示した。前時に作成した Jamboard は Google Classroom 内で生徒全員が閲覧できるようになっているため、多くの生徒は Jamboard の内容を確認しながら作文を書く様子が見られた。要点をまとめることが苦手な生徒の指導としても活用することができた。

また、早く書き終わった生徒は、Google Classroom 内の共有ドライブに保存して作文を読み合い、自分と異なる生徒の考えや書き方を知ることになった。

振り返りシートから、書くことによって改めて自分の読みを認識したり、自分の書く能力についてメタ認知したりしている様子が分かる。

振り返り
今日は、Bの桜蝶を作文に書きました。Bの好きなことを文字化すると、よりBの良いところが見つかりました。でもAはAでいい所がいっぱいあると感じました。結果AもBも面白いので二つともいいと思いました。作文にすると新たに気づけることが多くて良いことだと感じました。
(略) 課題が書き終わられて良かったです。課題をやる前は「二百字なんて書けるかな?」と不安でしたが、やり始めると結構書けたので良かったです。書いている途中は「二百字でおさまるかな?」って思ったくらい二百字ってそんなに多くなかったです。

表3 4時間目の振り返り (生徒記述より)

## 5時間目

単元の終末にこれまでの学習を振り返って記述する時間を設定した。学習の振り返りは「どのようなことに興味を持ったか」「何が身についたか」「もっと知りたいことや新たな疑問は何か」の観点を与えて書いた。

### 単元の振り返り（生徒記述より）

桜蝶の2つのストーリーに興味を持ちました。どちらが面白いのか、考えやすいのか、探す力を身につけたと思います。AとBで何が省略されているのか、Bでどのような描写が増えているのか、2つを比較して読む力も身につきました。なぜ作者の田丸さんは異なる2つの視点で物語を書いたのか疑問に思いました。

私は単元1で「桜蝶」がとても印象に残っています。また、「桜蝶」の視点が異なることによって物語の進み方、描かれ方が変わることにもとても興味がわきました。「クラスメイツ」などの一人一人の視点で物語が進んでいく物語を読んでみたいです。身についたことは、毎回の振り返りを書いていることです。書いたことによって、前の私よりは、人に伝えたいことを伝える力が少しついたと思いました。これからも振り返りを書いていって、少しずつ人に伝えたいことを伝える力を増やしていきたいです。

表4 単元の振り返り（生徒記述より）

単元の振り返りでは、一人の生徒の振り返りを共有したことによって、『桜蝶』と関連させた〔知識及び技能〕(3)オの読書に関する事項へと発展した。

森絵都『クラスメイツ』という本は、クラスのそれぞれの生徒視点でリレー形式に物語展開していく小説である。ある生徒が振り返りシートに『クラスメイツ』の本の紹介をすると、他の学習者が紹介された本を他の生徒が読んだり、同じように本を紹介したりする生徒が現れた。また、学校読書アンケートや、図書館本リクエスト、貸出状況から『クラスメイツ』を読んでもみようとする生徒が現れ、「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながったと言える。この学習の成果は、その後の単元「書誌情報を調べよう」や「ビブリオバトル」の学習へも発展していった。

一方で、〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イに関する学習について、200字作文の記述からB以上の評価規準に達していない生徒も見られたため、学習状況を基に次の単元計画を立てていく必要がある。

## 5 成果と課題

本年度の研究における現時点での成果は、以下の2点である。

- ① 生徒のパフォーマンスを「振り返りシート」に添付するなどの振り返りの工夫によって、個々の生徒の学習過程をより細かく評価することや「思考力、判断力、表現力等」を一体的に評価することができた。
- ② CBTの継続的な実施と振り返りによって、学習者である生徒自身に結果だけではなく学習の過程に目を向けさせることができた。学習への取組方や学習方法について振り返りを行うことで、自身の学習過程のつまづきを自覚したり、他者の学び方のよかった部分を取り入れようとしたりする生徒の姿が見られた。これは、「主体的に学習に取り組む態度」の育成にもつながるものと考えられる。

また、今後の実践研究においてさらに追究すべき課題として、以下の点があげられる。

資質・能力の向上においては、短期的な評価を積み重ねた上で、長期的な見取りが不可欠である。単元や題材のまとめりとともに総括的な評価を行った後、資質・能力シートをもとに、次に扱う単元の学習計画を見直す必要がある。

## 6 おわりに

「学習履歴の利活用による学習過程の振り返りの工夫」を副題として、「振り返りシート」の工夫及び Google Classroom を活用した成果物とその作成過程の蓄積に取り組んだ。「振り返りシート」については生徒が自らの学習過程を振り返る手立てとして使いやすくなるように修正を加えていきたい。また、単元や題材のまとめりごとに総括的な評価を行った後、つまづきのある指導事項については年間指導計画の中で補完できるように、当該指導事項を既存の計画の中で重点的に指導することや、学習の過程で関連させて指導するよう「資質・能力シート」の活用を進めていきたい。

(文責 阿部 奈央美, 米田 真琴)

### <引用文献>

- 1) 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）/中教審第197号，平成28年12月
- 2) 中学校学習指導要領/平成29年3月
- 3) 学習評価の在り方ハンドブック/国立教育政策研究所（2019年）

### <参考文献>

- ・中学校学習指導要領
- ・中学校学習指導要領解説 国語編
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料/国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・1人1台端末活用のミライを変える！BYOD／BYAD 入門/中川一史・北海道教育大学附属函館中学校編著/明治図書（2023年）
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料/文部科学省初等中等教育局教育課程課（令和3年3月）
- ・個別最適で協働的な学びをどう実現するか～令和の授業イノベーションを考える～/株式会社ぎょうせい（令和4年）
- ・これからの「学校」のあるべき姿を追究するⅡ 指導と評価の一体化を実現する学びのプロセス/横浜国立大学教育学部附属横浜中学校（2022年）